

兵庫陶芸美術館所蔵 赤木清士コレクション

古伊万里の モダン

華麗なるうつわの世界

The Akagi Collection from The Museum of Ceramic Art, Hyogo.
Ko-Imari Adapting to the Times - The Splendid World of Porcelain.



色絵花盆文大皿(部分)
肥前 有田
江戸時代中期
(17世紀末～18世紀中頃)



袖下彩大阪鉄橋図大皿(部分)
佐賀 有田
明治時代
(19世紀後半～末)



袖下彩鯉文大皿(部分) 佐賀 有田
明治時代(19世紀後半～20世紀初頭)
※作品は、すべて兵庫陶芸美術館所蔵
(赤木清士コレクション)

2024.
4.27^土-6.23^日

開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)
休館日 5月13日(月)・20日(月)・27日(月)、6月10日(月)・17日(月)
観覧料 一般 1,200(1,000)円、学生 1,000(800)円、
70歳以上の方 900(700)円
開催中のコレクション展もご覧いただけます。

- ※ ()内は前売りおよび20名以上の団体料金。
- ※ 18歳以下の方および高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。
- ※ 障害者手帳等の提示者とその介護者(1名)は無料。
- ※ 前売券は、ローソンチケット(Lコード62430)、セブンチケットでお求めになれます。

主催 古伊万里のモダン展実行委員会
(山口県立萩美術館・浦上記念館、毎日新聞社、tysテレビ山口)
後援 山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会
特別協力 エフエム山口



山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM



〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1 TEL 0838-24-2400 <https://hum-web.jp/>

古伊万里のモダン

華麗なるうつわの世界

江戸時代前期(17世紀初頭)、肥前有田(現在の佐賀県西松浦郡有田町)を中心とした地域で日本最初の磁器が生産されました。この肥前磁器は、近郊の伊万里港より船で積み出されたことから「伊万里焼」と呼ばれることとなります。特に、江戸時代につくられたものはいまも幅広く愛好され「古伊万里」と呼ばれています。

17世紀中頃には、中国磁器に代わるものとして、主にヨーロッパに向けた伊万里焼の輸出が本格化し、意匠や技術が洗練されていく中、1690年代には国内外に「古伊万里」のブランドを決定づけた豪華絢爛な古伊万里金襴手様式が現れます。

18世紀半ばには、海外輸出も終焉を迎え、国内市場に目を向けた「古伊万里」は、大名や豪商といった富裕層にとどまらず、同時代の町人や庶民の生活の中にある多様な好みや変化を敏感に捉えながら、時代の流行を追い求め、その姿を変えていきます。

さらに、明治維新を経て、西洋文化を積極的に導入し、近代国家へ生まれ変わろうとする動きの中で、磁器生産についても、文明開化の象徴とも言えるガス灯が描かれ、新しい顔料による彩色が施されるなど、西欧近代の新しい素材や技術が取り入れられました。

本展覧会では、時代の変化を敏感に捉え、モダンに生まれ変わっていく「古伊万里」を中心に、明治以降の伊万里焼も含めた約100件の作品で、その魅力に迫ります。

イベントの案内

記念講演会

「江戸から明治へ：赤木清士コレクションに見る陶磁器の近代」

※聴講無料

日時 4月27日(土)、13:30～15:00

講師 村上ふみ氏(兵庫陶芸美術館 学芸員)

会場 本館講座室

ギャラリー・ツアー ※要観覧券

日時 会期中 毎週日曜日 11:00～12:00

会場 本館2階展示室

第1章 古伊万里金襴手の世界



色絵花盆文蓋付大壺 肥前 有田
江戸時代中期(18世紀初頭～中頃)



色絵色絵花鳥文調味料入揃物(7点組) 肥前 有田
江戸時代中期(18世紀初頭～中頃)

第2章 華麗なる古伊万里の展開



染付松竹梅菊拾花文大皿 肥前 有田
江戸時代後期(19世紀初頭～中頃)



染付牡丹文徳利 肥前 鍋島藩窯
江戸時代後期(19世紀前半～後半)

第3章 新しい装飾技法



染付造幣局八角皿 岐阜 美濃
明治時代～大正時代(19世紀後半～20世紀前半)



色絵電線図大皿 佐賀 有田(瀬戸口富右衛門)
明治時代(19世紀後半～20世紀初頭)

※作品は、すべて兵庫陶芸美術館所蔵(赤木清士コレクション)

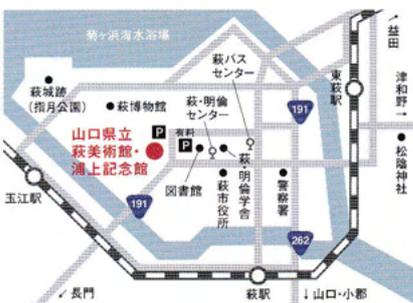


同時開催コレクション展

あこがれのうつわ —青花・五彩— 会場：本館1階展示室2

日本磁器が誕生する以前より、中国では磁器生産が盛んに行なわれていました。美しい白磁に清々しい青文様が描かれた「青花」、白磁に赤、緑、黄などの顔料を用いて文様を表わした「五彩」は、その美しさから日本人のあこがれとなり、憧れのエネルギーは、江戸時代前期(17世紀初頭)に肥前で日本最初の磁器「伊万里焼」を生み出しました。本展覧会では日本人を魅了した中国の青花磁器や五彩磁器の魅力について、また、伊万里焼のデザインとの関連性について紹介します。

青花牡丹唐草文鉢 中国・景德鎮官窯 明時代(宣徳在銘) 1426～1435年 当館蔵



交通のご案内

※運行の状況につきましては、各交通会社にお問い合わせください。

【新山口駅から】

■直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩・明倫センター下車(徒歩約5分)

■防長バス(約90分)で萩バスセンター下車(徒歩約12分)

【山口宇部空港から】・【萩・石見空港から】

■萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70～80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

■JR萩駅からタクシー約7分

■JR東萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約20分

■JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】

■中国自動車道「美祿東JCT」経由、「小郡萩道路」給堂ICから約20分

■山陰自動車道「三見IC」から約10分、国道191号沿い

ご来館のみなさまへ

臨時休館やイベントを中止・変更する場合があります。詳しくは当館ホームページをご覧ください。



山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM

〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1 TEL:0838-24-2400
https://hum-web.jp/